

## 与えられた命を生かす「自己実現の機会」も不注意による事故を起こしては…

小林 哲之  
愛媛県大洲市 愛媛舗道株式会社社長

### 安管活動に参画し社長業を引き継ぐ

私は昭和56年(1981年)の5月から大洲市の安全運転管理者協議会の会長となった。当時はまだ父が社長を続けていたが、私は専務として社業の面でも何かと父の代理を務めるようになっていた時期だった。

その後、同58年、私は父から愛媛舗道のかじ取り役を全面的に委ねられることとなった。古希を迎えたのを機に引退した父から会社を引き継いで大きな責任を感じたけれども、それまでの経験もあり比較的スムーズに社長業を受け継ぐことができたように思う。

小なりとはいえ会社社長の土台を築きあげたまでには父にも人知れぬ苦労があった

はずだが、私は父が泣き言めいたことをいうのを聞いたことがなかった。過酷な戦火の地から九死に一生を得て帰ってきた父に私利私欲を追求する念がきわめて薄かったということは前にも述べたとおりである。父が自分はもちろん社員に対してきびしく要求した「これでいいのか」という現状批判の精神は、せっかくならと与えられた一度限りの命をわれわれは日々生かしているのだろうかという自省の念から発していたものだ。

今考えると、ただ漫然と生きることをもったいないと考える「自己実現への努力」だったのではないかとも思われるのである。経営者として社員みんなが持っている目に見えない能力を引き出し、その力を仕事にもまた家庭でも生かすことでより幸福になり、世の中を明るくする

ろが、私が学校を出るところから土木の仕事が様変わりし、機械や設備面も次々にオートメーション化、近代化が進み、コンピュータによる設計や舗装材の配合等の管理手法が進んできた。

国土の開発と道路環境の整備が進展するにつれ舗装の仕事も重要度を増し、愛媛県内でも同業各社による道路舗装協会なども設立されている。多種多様な特殊工事施工と高品質材料が要求されて同業者が互いに研鑽するようになった。

### 舗装業の海外視察 橋梁等に劣化現象

舗装の仕事は新しい事業分野でもあり、参考のために欧米道路先進国の業界視察ツアーなども企画された。せっかく海外に出かけるのであるから文化的な見聞を広める機会にもしたい。私も昭和40年代の半ばから視察団に加わってヨーロッパ、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどへ行くようになった。欧米諸国は4回から5回、ブラジルなども比較的早い時期に訪れ、アマゾンに通じる長大な道路施設とその舗装状況などを見て回った。ついでにイグアスの滝などにも行き、自然界の豊かさスケールの大きさを実感したものである。

市川興一



ることにつながればいいと願っていたのだろう。

### 不注意事故の記憶 安全活動への理解

むろん、不注意による事故などがあつては、自己実現そのものがおぼつかなくなるうえに周囲の人々をも不幸にする。愛媛舗道では作業事故の防止には周到な注意を払ってきた。しかし、現場の事故を根絶するには不断の注意が必要だ。

当社にも作業に当たった者のわずかな不注意による生々しい事故があった。下り坂に停めたローラーの歯止めをきちんとして確認しなかったミスによって、重い機械が動き出し、停まっていた自社の車に衝突して人が出た。そういう痛恨事があるだけに、私が交通事故防止の活

ネアポリスでミシシッピー川の中流にかかる大規模橋梁の落下事故が報じられたが、私どもが視察した頃から中北部など気候の寒冷などでは古い橋脚の一部に劣化現象が見られたことを思い出した。かつて日本では道路建設に海砂を用いていた。現在は塩抜きをした砂でナマコンを作るようになったが、海砂は劣化を早めるので万全な対策が必要である。

大洲の安全運転管理者協議会の加盟事業所数は170余、私が会長になった約30年前と今日とでその数に大きな違いはない。車両を使用する地域産業の規模がそれほど拡大していないことだろうか。会長の任にあった平成17年までの25年間、私はいつも頭のどこかで交通安全事故防止の手だてを考え、思いついたアイデアについて周りの関係者や専門スタッフの意見を聞き、実現できるものは実行に移してきた。平成元年5月からは愛媛県の安全運転管理者連絡協議会の副会長となり、さらに同13年から17年5月まで会長職を仰せつけられた私は、名目だけの会長にとどまることのないよう精励し奮闘した。大洲管内の協議会でも会長を続けていたので、安全運転管理にかかわる私の活動の後期は県の全域と大洲に対して、同じようなテーマでの展開があったといえる。



小林哲之(こばやし さとし)さんのプロフィール  
1942年(昭和17年)愛媛県大洲市生まれ。愛媛舗道株式会社社長。大洲高校から麻布獣医科大学(現・麻布大学)に進み65年卒業と同時に父君が創業し経営する愛媛舗道株式会社入社、83年社長となり今日に至る。早くから交通安全の重要性に目を向け81年大洲安全運転管理者協議会会長に就任(在任25年)、89年愛媛県安全運転管理者連絡協議会副会長(同12年)、2001年より会長(同5年)をつとめ、愛媛県高速道路交通安全協会副会長(同5年)なども歴任した。事業所の運転管理を中心に地域社会における安全活動の推進力となつて強いリーダーシップを発揮し、その功勞により2005年春の第45回交通安全国民運動中央大会においては全国優良安全運転管理者協議会の代表として表彰を受けた。